

# 雪の国の おはなし

その4

## 流雪溝の物語



市街地を中心に整備され活用されている流雪溝。その歴史や仕組みをご存知でしょうか。

今回は、十日町市流雪溝運営協議会と松代地区流雪溝運営協議会の協力を得て、流雪溝の実際取材しました。

### 流雪溝の始まり物語

流雪溝は河川などの水を利用して側溝に流し、宅地や道路の雪を河川に運び込む雪処理施設です。

十日町地域では、昭和47年に初めて流雪溝が設置されました。平成7年には十日町駅西口にある十日町市流雪溝中継ポンプ場が整備され、平成15年から7地区にゾーン分けされた現在のシステムで稼働しています。

松代地域では、昭和48年に消雪パイプの整備が行われました。しかし、当初消雪パイプ用で考えていた水源の川の水が冷たく消雪能力が低かったため、消雪パイプから流雪溝に改め、稼働したのが始まりです。



### 流雪溝の数字物語

十日町地域では、信濃川と田川から、毎秒最大で2.1t（ドラム缶約10本分）、松代地域では洪海川か



ら最大で0.083t（ドラム缶約半分）の水をポンプアップして利用しています。

十日町地域の流雪溝の総延長は、約50km、利用戸数は約3,600戸、松代地域ではそれぞれ約3.4km、157戸となっています。

### 流雪溝の運用物語

多くの利用者があるため、流雪溝運営協議会が中心になってルールを作り、これに基づいて流雪溝は運用されています。通水する時間は区域ごとに決められていて、時間ごとに仕切板などで水の流れる方向を変え、効率よく流雪溝への投雪作業が行われています。

しがしながら、ときには、雪が詰まって水がせき止められ、流雪溝からあふれ出す「水上がり」が発生することがあります。多量の水が流れ

るために思わぬ事故を誘発するだけでなく、下流に水が行かなくなるため、この「水上がり」が発生した場合、すぐに対処をしています。



### ご近所の底力物語

流雪溝の運用について、町内でも独自のルールを作り運営しているところがあります。

例えば、本町6丁目。水上がりしやすいところでは、投雪するのは1軒1人だけとし、時間帯で投雪できる家を決めています。一度に多く投雪されるのを回避し、水上がりを防いでいるのです。

このルールを守ることで、水上がりの回数は減少したとのこと。皆さん、参考にしてみたいかがでしょうか。

## 雪の国のおはなし

### 【豆知識】

流雪溝の水はどこから来るの？

中里地域の宮中ダムから取水され、JR東日本千手発電所の放水路を経由して妻有大橋を渡り、総合体育館近くの緑道を通って、十日町駅西口の「十日町市流雪溝中継ポンプ場」に送水されています。

これだけの規模とシステムで流雪溝が整備されているのは、全国でも小千谷市と十日町市だけのことです。

### 取材を終えて…

家の近くに流雪溝があり活用していましたが、それほど気にはしていませんでした。

流雪溝は確かに便利な施設です。でも、多くの人が利用しています。ほかの人のことも考え、「投雪の時間を守る」「一度に大量の雪を投雪しない」「人力のみで投雪する」などのルールを守り利用していかねばならないと、再認識しました。

松代地域では、松代高校新聞編集委員会の皆さんといっしょに取材しました。初めて聞く話にならずにいる高校生の姿が、とても新鮮でした。

## 流雪溝のもつ二つの価値

雪の  
ひとくち  
メモ④

### 「時間が命」を実感

流雪溝を近くで見ると初めてだったのが、見たり聞いたり全部新鮮でした。

松代地域の流雪溝は、決まった時間、それも20分という限られた時間内に雪を落とさなければならず、慣れないと結構大変な作業です。でも、これが家の近くにあると、重い雪が一瞬にして流れ去るわけだから大助かりなんだと、実感しました。

### 松代高等学校新聞編集委員会

流雪溝で地域のきずなを  
深めよう

すこ〜く便利な流雪溝のようですが、問題もあります。最大のポイントは、消雪パイプと違って、人の手で片付けなければならない点です。

お年寄りにはちよつと大変な作業（松代地域の高齢化率は約43%）だし、業者などに委託するとさらにお金がかかってしまいます。

でも、そこはみんなで協力し合って雪を流すなど、地域の連携があれば負担を軽くすることができるとも思っています。

そうすれば、流雪溝は地域のきずなを深めてくれる、さらに価値ある存在になるのではないのでしょうか。

